



## データボード④9

- ① 大阪府八尾市山本地区
- ② 延長 6 km
- ③ 修景舗装散策道、親水護岸
- ⑤ わんぱく魚つかみ大会、北山本地区  
桜まつり

玉串川はかつては大和川の支川であったが、江戸中期に大和川が堺側に付け替えられてからは農用水路として使われてきた。旧河川敷に開かれた新田が戦後住宅地として開発され、その後、堤防の両岸は町会単位でソメイヨシノが植樹された。現在、桜並木も延長六キロメートル、一〇〇〇本となり、春の開花期、秋の紅葉期には多くの市民が訪れ、水辺の並木道として親しまれている。

八尾市では郷土のシンボルであるこの並木道を保全しながら緑地軸、コミュニティ軸とするため、散策道として修景舗装をしたり、親水護岸の整備を行っている。